カンボジア情報

図書館

国立図書館

ホテル・ル・ロヤル（Hotel Le Royal）の右隣

ウェブサイトなし（→オンライン検索不可能)、館内 OPAC で検索可能

建物は 3 つに分かれている。

中央：内戦後の図書、逐次刊行物

左：内戦時の逐次刊行物、植民地時代の図書

右：事務所

内戦前の逐次刊行物の一部が PDF でオンライン公開

公文書館(National Archives of Cambodia) (http://nac.gov.kh/en/)

オンライン・カタログもあるはず

使用料要（一ヶ月)、館内にコピー機あり、撮影可

クメール研究所(Center for Khmer Studies)図書室
(http://ckslibrary.khmerstudies.org:8080/newgenlibctxt/)

フランス極東学院シェムリアップ支部図書室（https://www.efeo.fr/base.php?code=265）

仏教研究所図書室（http://www.budinst.gov.kh）

クメール語のみ、OPAC 検索は可能な模様

ポルポト時代に蔵書の殆どは喪失。内戦後のものだけ。

Cambodia Development Resource Institute 図書室（https://cdri.org.kh）

上院図書館(Senate Library) (http://senate.gov.kh)

クメール語のみ

国立博物館図書室
(https://cambodiamuseum.info/en_projects_activities/research%20library.html)

書店

Monument Books (http://www.monument-books.com/bookshop/)

カンボジア関連書籍、インドシナ関連書籍、東南アジア関連書籍あり。オンライン購入可能（海外郵送は？）

International Book Center (http://www.ibc.com.kh/Books/)

クメール語の本が多い

Kinokuniya　(http://kinokuniya.com.sg/cambodia/)

イオンモール二号館に進出、カンボジア国外で出版された英語本

新聞

Phnom Penh Post (https://www.phnompenhpost.com)

マレー資本による買収後、与党寄りへ

The Cambodia Daily (https://www.cambodiadaily.com)英語版

2017.9.27 に廃刊。海外からオンライン発信

Rasmei Kampuchea (http://www.rasmeinews.com)

クメール語紙、よく見かける。

Koh Santepheap (https://kohsantepheapdaily.com.kh)

クメール語紙、老舗

雑誌

Kampuja Suriya (王立図書館→仏教研究所)

仏教、文学、民俗学、歴史

2004 年前後から休刊

Sveng Rok Kapet (Searching for the Truth)

クメール語と英語の月刊誌。虐殺に関係するもの

Documentation Center of Cambodia (http://www.truthcambodia.com)が発刊

Udaya

Journal of Khmer Studies (http://www.yosothor.org/udaya/index.php/ujks)

Cambodia Development Resource Institute の報告書（英文もあり）

政治経済、開発

Reyum Institute の出版物（クメール語と英語）

芸術、文化、社会、民族

The Popular Magazine (https://www.pmhotnews.com)

大衆誌

国家による監視、検閲

Phnom Penh Post 編集部入れ替えのように穏便に統制

フェイクニュース取締を理由とした政権批判取締

インドネシア情報

図書館

国立国会図書館(National Library of Indonesia) (http://www.pnri.go.id)

2017 年 10 月に新築（27 階建)。資料・書籍は新図書館へ。新聞などは旧図書館に。

新図書館で登録（パスポート要)、一般書籍は貸出可。写真撮影は一般には不可。

OPAC 検索可。ただし、移行期のため、アクセス困難な場合あり。

新聞は旧図書館（→管理が杜撰でアクセスしやすい)。

一般書籍に加え、19 世紀後半以降の新聞や雑誌などがあり、マイクロ化されているものは新図書館にあり、プリントアウト依頼可。

一部の古い新聞はデジタル化

国立公文書館（National Archives of Indonesia) (https://www.anri.go.id/home)

（各州にも地方公文書館あり）

研究・技術・高等教育省の調査許可要。ラップトップ・パソコン、ノート、筆記用具のみ持ち込み可。写真撮影不可。コピー、スキャン依頼可（費用発生)。

オンライン検索可、しかし、不十分。マニュアルによるカタログ検索不可避。

オランダ東インド会社、蘭領東インド総督府の公文書、インドネシア政府の公文書、植民地期の新聞など。

植民地時代の公文書のデジタル化は一部開始。

インドネシア科学院(Indonesian Institute of Sciences, LIPI)図書（http://katalog.lipi.go.id)

オンライン・アクセス可、しかし、よくない。

逐次刊行物が充実か？

戦略国際問題研究所(Center for Strategic and International Studies, CSIS)図書館 (https://www.csis.or.id)

新聞のクリッピングが秀逸。テーマごとにクリッピングの販売あり。

インドネシア大学(University of Indonesia)中央図書館（http://lib.ui.ac.id/home)

2008 年から 2011 年の卒論・修論・博論がオープン・アクセス。それ以外もメンバーになれば、オンライン・アクセス可。

ガジャマダ大学図書館（Gadjah Mada University)図書館（http://lib.ugm.ac.id/)

館内パソコンで、卒論・修論・博論にアクセス可。

これらの要旨は、オープン・アクセス（http://lib.ugm.ac.id/ind/?page_id=248)

本屋

Gramedia 書店（https://www.gramedia.com）

インドネシア最大の書店チェーン。オンライン購入可

Gunung Agung 書店（http://www.tokogunungagung.com/beta/）

第二の書店チェーン。衰退気味か。

オンラインも可（https://shopee.co.id/tokogunungagung）

Obor 書店（http://obor.or.id）

イスラーム系図書が充実。オンライン購入可

Social Agency Baru 書店（http://socialagencybaru.com）

ジョグジャカルタの老舗書店。新書の割引が魅力。

オンラインショップ(Tokopedia, Bukalapak)から購入可

古本屋

Kwitang Street にわずかに残る。

Pasar Senen と Blok M Square にまだいくつかある。

Galeri Buku Bengkel Deklamasi (https://www.facebook.com/pages/Galeri-Buku-Bengkel-Deklamasi/478731895654448?nr)（イスマイル・マルズキ公園内）

Pasar Buku Langka (タマン・ミニ公園内)

オンライン書店

新書・古書ともにオンラインでの購入も一般化（Bukalapak など）

古書は、Facebook で Gudang Pemulung Buku dan Dokumen, Pasar Buku Militer, Obral Buku Online などがある。ただし、銀行振込、国内送付先が必要。

新聞

Gramedia Digital (https://ebooks.gramedia.com)

主要な新聞、雑誌をオンラインで読める。

Kompas (https://www.kompas.com)

最もスタンダードな日刊紙（キリスト教系であった)。

Koran Tempo (https://koran.tempo.co)

調査報道主体で、最も批判的。

Bisnis Indonesia (http://www.bisnis.com)

インドネシアの日本経済新聞みたいな日刊紙

Media Indonesia (http://mediaindonesia.com)

Republika と並んでイスラーム色が強い。

Rappler.com (https://www.rappler.com/indonesia)

オンライン版報道調査日刊紙

Kumparan (https://kumparan.com)

プロや市民ジャーナリストの投稿型ニュース・ウェブ

雑誌

下記 3 誌が報道調査系

Tempo (https://majalah.tempo.co)

Gatra (https://www.gatra.com)

Forum Keadilan (https://forumkeadilan.com)

国家による監視、検閲、フェイクニュース

国家によるオンライン情報の収集は行っているが、フェイクニュースが非常に多く、選挙期間中は膨大なフェイクニュースが出回っている。フェイクニュースづくりのプロ集団が検挙された。国家によるフェイクニュース取締も厳しくなりつつある。

デジタル・リテラシー向上を目指した NGO、ICT Watch (https://ictwatch.id)誕生。

ラオスの情報

他の国に比べて、格段に状況が悪い。

図書館

ラオス国立図書館（The National Library of Laos）
（http://nationallibraryoflaos.net/en/home/）（2016 年 12 月に移転）

ラオス語、英語、フランス語の文献。資料の件数は少ない。年会費を払えば貸出可能。

オンライン化はしていない。新聞や雑誌あり。マイクロ化は進んでいない。

コピーや写真撮影は、最近の情報の確認要。仏領期希少図書デジタル化中

ラオス国立大学(National University of Laos)中央図書館

修士論文、博士論文の閲覧可能（製本された論文のコーナーあり）

修士論文、博士論文：2015 年から CD による納本開始（リポジトリ構築中で閲覧不可）

情報文化省資料室

革命期からのラオス語新聞・雑誌あり。コピー、写真撮影可

ラオス国立農林業研究所図書室

ラオス語、英語、タイ語の関連資料あり。

フランス極東学院ラオス支部図書室（https://www.efeo.fr/blogs.php?bid=21&l=EN）

オンライン図書室

http://lao44.org/

開発関係のダウンロード可能な報告書などが豊富。

本屋

ラオス国立図書館 1 階の書店

Monument Books（シームアン寺近辺）（英語の本、ラオス語の本）

古本屋

街中にラオス語の本の古本屋はあるが閉店したり、不定期開店だったり。（リクエストすれば探し出してくれる場合もある。）

オンラインでの購入：不可能

新聞

Pasason（ラオ語）（http://www.pasaxon.org.la）：人民革命党機関紙

Vientiane Mai（ラオ語）(https://www.vientianemai.net):ビエンチャンに出回る党機関紙

Vientiane Times(英語)(http://www.vientianetimes.org.la)：党機関紙

国家による検閲、フェイクニュース

出版物：事前検閲。新聞、テレビで流されている情報も政府による事前検閲
フェイスブックなどオンラインで情報のほうが正確な可能性大。
フェイクニュースも存在し、オンライン情報のチェックもしている。

マレーシアの情報

図書館

マレーシア国立図書館（http://www.pnm.gov.my）

無料で三年間有効な入館証発行（事前オンライン登録可）。OPAC 検索可。一部貸出可。
コピー、マイクロフィルムの印刷可。
専門書が多いわけではないが、最初のアクセス先として良い。
Malaysiana と呼ばれるマレーシア関連資料コレクションあり（逐次刊行物、書籍、地図、法令、官報、貴重書、マレー語写本など）
デジタル化も進んでおり、ポータルサイト経由で各新聞社のデータベースにアクセス可。

マレーシア国立文書館（http://www.arkib.gov.my/web/guest/home）

首相府経済企画庁発行の調査許可要（申請書に文書館利用の記載要）。
一年間有効の利用証。コピー、マイクロフィルムの印刷可（有料）
オンラインで文書検索も可能な模様。（使い勝手は不明）
連邦および州の行政機関ごとに分類された行政書類が中心。

マラヤ大学中央図書館

所属機関などからの紹介状＋写真で利用証（三ヶ月更新）（有料）。
コピー、マイクロフィルムの印刷可（有料）。
OPAC 検索可（http://www.pendeta.um.edu.my/client/en_AU/default）。
ただし、現物がない場合あり
修論・博論のカタログへのオンラインアクセス可。図書館で現物へのアクセス可。

ニュー・ストレイツ・タイムス・リソースセンター(NSTP Resource Centre)

入室料あり（時間制）。コピー、マイクロフィルムの印刷可（有料）
New Strait Times, Berita Harian, Malay Mail, Echo のバックナンバーが主題別に来るッピングされている。製本版、電子版、マイクロフィルム版あり。

華社資料研究中心（Center for Malaysian Chinese Studies）付属集賢図書館（http://www.malaysian-chinese.net）

入館証要（有料）。
80 年代以降のテーマ別新聞記事スクラップあり。直近のものはスクラップなし
華語新聞、マレー語新聞、英語新聞

シンガポール国立大学マレーシア・シンガポール・コレクション

裏技。マラヤ大学より文献調査のためには使いやすい。

事前にメールで入館申請

本屋

Gerakbudaya (http://gbgerakbudaya.com/home/)

マレーシアの社会科学・人文科学関係の購入にはベスト。

オンライン購入可

マラヤ大学書籍部

マラヤ大学その他大学出版会の出版物あり。

Popular (https://www.popular.com.my)

紀伊国屋（https://malaysia.kinokuniya.com）

MPH (https://www.mphonline.com/en/home)

この三書店は一般書店。専門書もあり。

新聞

英語紙

The Star (https://www.thestar.com.my)

元与党連合寄り

New Straits Times (https://www.nst.com.my)

元与党連合寄り

Malay Mail (https://www.malaymail.com)

マレー語

Utusan Malaysia (http://www.utusan.com.my)

元与党連合寄り

Berita Harian (https://www.bharian.com.my)

元与党連合寄り

Sinar Harian (http://www.sinarharian.com.my)

比較的中立

華語紙

星洲日報（http://www.sinchew.com.my）

元与党連合より

東方日報（http://www.orientaldaily.com.my）

比較的中立

オンライン・メディア

Malaysiakini (https://www.malaysiakini.com)

英語・マレー語・華語・タミール語版あり（言語ごとに編集が違う）

有料、調査報道では有力。

Malaysian Insight (https://www.themalaysianinsight.com)

英語・マレー語版あり

有料

Malaysia Today (https://www.malaysia-today.net)

英語・マレー語版あり

雑誌

The Edge (http://digital.theedgemalaysia.com/theedgemediagroup/?group=tem)

経済系雑誌、オンライン版あり。

国家による検閲・監視

全体として国民連合（BN）が政権についていた時代の新聞紙は、国家の直接の検閲というよりも所有権の関係から与党寄りの報道をするか、ごくごく客観的な事実や、政府発表を繰り返していたのが基本。

一定の許容範囲を超えると、理由をつけて新聞やジャーナリストに圧力。

政権交代後も政府は新聞に関しては免許制度を維持。

ただし、それを撤廃する動きが進行中。

将来的には政府から独立した Media Council 設置予定。メディアのバイアスや不当報道監督。

旧 BN 政権下から紙の新聞とオンライン・ニュースサイトの自由度の違いが大きいのがマレーシアの 2018 年までの特徴。2018 年の政権交代後、全体として政府から独立した報道の増加。旧 BN 体制下では BN に批判的な報道が強かったオンラインメディアの Malaysiakini はナジブ前首相をインタビューするなど、今のマハティール政権からある程度の距離をとっている。政治的なメディア・コントロールは緩和。

フェイクニュースはツイッターやフェイスブックで合成写真が出回ることあり。しかし、インドネシアほどではない。

最近マレーシアでも「正しい」イスラーム的モラルへの圧力が強まっていて、報道やジャーナリストもそれを少し懸念しつつある状況が生まれつつあるように見えます。

ミャンマー情報

図書館

国立図書館（http://www.nlm-npt.gov.mm）

ネピドーに移動、OPAC 導入進展中。京都大学が古文書のデジタル化支援。

国立公文書局（ウェブサイトなし？）

ミャンマー大使館に事前に利用申請（、所属機関の推薦書要)、現地で使用料要

局内のコンピューターでカタログへのアクセス可（、資料タイトルの誤登録あり）

同局の文書整理番号は植民地行政の整理番号と別。

植民地期から現在までの行政文書あり。

一般公開は 1948 年の独立以前の文書。1963 年までの文書も一部公開。

大学中央図書館(Universities' Central Library) (http://www.uclmyanmar.org)

すべての大学の共同利用図書館。貝葉の貴重な仏典などもある。

オンライン検索可。誰でも利用可能、写真撮影可。英語ができるライブラリアンもいる。

植民地期の新聞などもあり、マイクロ化されている。

本屋

Myanmar Book Center (http://www.myanmarbook.com)

オンライン購入可能。

古本屋

かつては路上で販売されていたが、いまではオンライン情報に頼る人が増えて、古本屋は消滅気味？

出版の自由度

2012 年、出版の事前検閲制度の廃止に伴い、様々な出版物が出始めた。ジャーナリストがロヒンギャ問題などセンシティブなイシューを扱うと、出版後に逮捕される場合がある。ただし、一般の人はオンラインでの情報に頼る傾向が顕著であり、紙媒体への需要は減りつつある。

新聞

Seven Days Daily (http://www.7daydaily.com)（ビルマ語）

Myanmar Times (https://www.mmtimes.com)（英語）（かつて国営、今、民営）

有力なのは六紙ぐらい。ただし、メディア王のような存在はいない。

オンライン・メディア

DVB (http://www.dvb.no)

Democratic Voice of Burma。独立系ラジオ・テレビ局。

Mizzima (http://www.mizzima.com)

Myanmar Stories (https://www.facebook.com/pg/myanstories/)

映像・動画でミャンマーの政治経済的イシューの共有サイト

雑誌

Frontier Myanmar (https://frontiermyanmar.net/en)

総合誌として良い。オンライン・ニュースあり

Eleven (http://news-eleven.com)

スポーツ誌からはじまった総合誌。オンライン版日刊紙あり。

The Irrawaddy (https://www.irrawaddy.com)

調査ジャーナルとして一級

国家による検閲

インターネットの国家による監視は行われておらず、問題のあるオンライン情報には後で対処。そういう意味で、Post-Truth 時代の最先端を行くかも。

インタビュー

昨今の自由化により、ツテがあればかなりいろいろな人と会える。

フィリピンの情報

図書館

国立図書館（http://web.nlp.gov.ph/nlp/）

利用料は 50 ペソ。改修工事中、司書の対応ずさん、OPAC 検索可

OPAC 検索不可の資料について対応が悪い。

改修工事中のため貴重な資料へのアクセスができないことがある

アテネオ大学リザル図書館（http://rizal.library.ateneo.edu/）

利用料 100 ペソ、司書の対応は丁寧。OPAC 検索可。1 枚 2 円程度で一般書籍のコピーは可能。外部者の貸出不可。ID 持参不可欠（他の私立大学も同様）。

（参考：ラサール大学、University of Sant Thomas も同様。また後者の二つはドレスコードがあり、半ズボンとサンダル等での軽装では入れないことも）

アメリカ植民地期の資料充実。ただし、植民地期の資料のコピー：一枚 80 ペソ

Manila Times（1945 年以降）など日刊紙のマイクロ可

Philippine Daily Inquirer 紙と Philippine Star 紙のデジタル化（DVD）（2000 年以降）

植民地資料、新聞などは図書館の Periodical Index での検索が必要

修論と博論のリストと現物あり。コピー不可。

フィリピン大学附属図書館（http://ilib.upd.edu.ph/）（各学部にも図書室あり）

利用料：50 ペソ、OPAC 検索可。

古いフィリピン関連の書籍が利用しやすい。

マイクロフィルムの保存状態は場合によっては劣悪（アテネオ大学図書館のほうがよい）。

修論、博論は 10 以上の各学部の図書室にあり。OPCA にないものもある（→図書室巡り）。

紙媒体の雑誌は写真撮影可の図書室もあり。

附属図書館の UP Archive：Roxas Paper, Quirino Paper といった 30-60 年代の大統領関連資料あり。

外部者への貸出不可。利用も図書室によっては指定曜日制

ロペス図書館(移設中。2019 年前期に再開)

利用料 100 ペソ（？）、司書対応良。ロペス家管理の図書館、貸出不可

Manila Times のデジタル化終了。ただし、OCR 未了。プリントアウトが一枚 100 ペソ

本屋

Solidaridad bookshop (https://www.facebook.com/solidaridadbookshop/)

フィリピン研究者の御用達。大学出版書籍入手可。

Ateneo de Manila University Press (http://ateneo.edu/ateneopress/)
　アテネオ大学内書店。書籍はアテネオ大学出版のもののみ。
　NUS や他大学出版の書籍がアテネオ大学から再出版され破格になっていたりする。
UP Press (https://press.up.edu.ph)
　フィリピン大学内書店。フィリピン大学出版書籍のみ。
　フィリピン語の出版物もあり、歴史、映画研究などはフィリピン語のものが多い。値段も比較的にお手頃。

オンライン書店リスト（古本屋も含む）

https://www.spot.ph/shopping/the-latest-shopping/68393/10-online-booksellers-in-the-philippines-a00171-20161111-lfrm

文献や資料のデジタル化の試み

今まさに進められている途中。

新聞

日刊紙
Philippine Daily Inquirer (https://www.inquirer.net/)
　Philippine Daily Inquirer の本社は Makati にあります。そこでは、1996 年から現在までの記事がアーカイブ化されており、キーワード検索を利用をし、必要な記事をプリントアウトすることができます。もちろん Inquirer のオンラインでも検索はできますが 2010 年以前の記事はすでに消失していることが多いので、めぼしい記事を探す際には非常に役立ちます。一枚 5 ペソです。
Philippine Star (https://www.inquirer.net/)
Manila Bulletin (https://mb.com.ph/)

オンライン・ジャーナル

Rappler (https://www.rappler.com/)
　調査報道系
Mindanews (http://www.mindanews.com)
　ミンダナオ情報に特化したオンライン・ニュース・サイト

雑誌

Philippine Free Press
　戦前から発行。

国家による検閲、監視

Rappler はドゥテルテ政権による人権侵害等を批判する記事を掲載し続けた結果、営業権の停止などの警告。セルフ・センサーシップは働いていると思われますが、直接的な検閲はそこまで強くない。セブやバコロッドなどでは警察がジャーナリストの個人情報を入手する場合あり。マニラ首都圏については少なくともそういうことはない。

オンラインでの資料へのアクセス度

現在の資料については比較的アクセスしやすい。新聞や雑誌についてもオンラインで掲載されているものが多い。一方で、1990 年代以前になるとネットでは調査不可。植民地期以降の 1946 年から 1960 年代半ばまでのローカルな資料を探すのは非常に困難。また行政資料についても大まかなものは統計局（https://psa.gov.ph/)で利用可。しかし、限度あり。

フェイクニュースなどへの対策

ほとんどされていない。フェイクニュースで溢れている。ただし、フェイスブックの暴力や性的な画像・動画を検閲し削除する会社がマニラにある。http://www.gebrueder-beetz.de/produktionen/the-cleaners

タイ情報

図書館

公文書史料は基本的にタイ国立公文書館とタイ国立図書館に所蔵される。(一部参照の必要がある外交文書など、省庁の資料室に残されているものもあり。)
外国人研究者は基本的に National Research Council of Thailand を通して利用許可を得る。(公文書館の方は一時的短期利用であれば NRCT の許可なくして可能と聞く)

タイ国立公文書館 (http://www.nat.go.th)

基本的に 5 世王期(チュラ―ロンコーン王の治世 1868-1910)以降の文書が保管されている。(だいたい 1950 年代くらいまで、一部省庁によっては 1970 年代初頭の文書の一部も入っている。)省庁別にカタログが作成され、一部 5 世王期から 7 世王期の文書の一部は治世ごとにカタログがある。(しかし治世ごとに整理されていない文書も大量にあり、その中には 5 世王期にさかのぼる文書も含まれるので要注意)。その他、王族や政治家などが寄託した個人文書なども入っている。Folder に入っている。7 世王期末までの基本文書はマイクロ化されているが、多くの文書は現物のままである。

現物史料の複写コピー、マイクロフィルムからのプリントアウトは、依頼可能。写真撮影不可。2 階は地図・写真資料室となっている。一部デジテル化されているが、館内でのみアクセス可能。

タイ国立図書館 (https://www.nlt.go.th/th/)

古文書部というセクションに、基本的に 4 世王期までの公文書史料が保管される(が、一部 5 世王期の史料もあり。―サムット・コーイと称される横折本タイプのもの)。公文書以外に、年代記、文学、貝多羅葉に刻まれた経典、仏教絵図や地図なども所蔵される。一部はマイクロフィルム化済。これらの所蔵史料の閲覧には NRCT の許可以外に国立図書館において、カタログをみたうえで必要な資料をみるための許可申請必要。(許可が出るまでに 2－3 週間かかり、許可された以外の資料をみることは困難。)

新聞や雑誌は 1 階の新聞・雑誌室で閲覧可。古いものはマイクロ化。両機関ともに Facebook あり。貴重書コーナーあり。一部はデジタル化。

チュラロンコーン大学附属図書館 (https://www.car.chula.ac.th)
タマサート大学付属図書館 (https://library.tu.ac.th)
(参考:カセサート大学附属図書館 (http://www.lib.ku.ac.th/web/index.php/th))

外部者:20 バーツで一日閲覧可(外国人はパスポート要)。年会費(+保証金)で貸出可

貴重書セクションがあり、1 9 世紀末以降に出版された刊本所蔵。最近はデジタル化公開にも力を入れている。(チュラロンコーン大学のほうが充実している。)なお、タイには葬儀の際に一族の系譜や故人にゆかりの歴史文書などをあわせて出版する慣行があり、歴史研

究にも利用されることがある。以前は Bowonniwet 寺院の図書室が多くを所蔵していたが、最近タマサート大学に寄贈されたと聞く。

学位論文へのアクセス
タマサート大学：電子版のオープンアクセス化
　(http://beyond.library.tu.ac.th/cdm/search/collection/thesis)
　(製本版のみの学位論文検索は、同大学図書館の検索か OPAC 利用)
チュラロンコーン大学：利用登録後、学外から電子版にアクセス化
チェンマイ大学、マヒドン大学：学内からのみ電子版にアクセス化

本屋

CU Bookstore（チュラロンコーン大学）(http://www.chulabook.com/home.asp)
　オンライン購入可能
Asia Books (https://www.asiabooks.com)
　英語書籍がメイン
　オンライン購入可能
紀伊国屋(https://thailand.kinokuniya.com)
　オンライン購入可能
Matichon Bookstore (https://www.matichonbook.com)
　オンライン購入可能。文学書、修論・博論も出版
Sriwong Bookstore
　チェンマイの老舗書店
　Silkworm 出版（https://silkwormbooks.com)もやっている。
チャクラポップ
　Imperial World Lao Phrao5F。アイススケート場の近くで、ピース・テレビの手前。
　赤シャツ系の出版物販売

オンラインの古本屋は存在する。店舗型は発展せず。

Book Fair
　4 月と 10 月にバンコクで開催。主要な出版社が出店。

新聞

Matichon (https://www.matichon.co.th/home)
　クオリティが高い。
Thai Rat (http://www.thairath.co.th/home)

部数が多い。全方位的なスタンスを取っている。

Prachathai (https://prachatai.com/english/category/news)

調査報道系

Bangkok Post (https://www.bangkokpost.com)

英語紙

The Nation (http://www.nationmultimedia.com)

保守化、王室寄り過ぎでジャーナリストの流出。新自由主義的で反タクシン

Khao Sod (https://www.khaosod.co.th/home)

Matichon 系列でより急進的。英語版あり。

オンライン・ジャーナル

Isaan Record (https://isaanrecord.com/home/)

東北タイ（赤シャツの拠点）の政治社会運動情報

雑誌

Matichon (https://www.matichonweekly.com)

共同経営をしており、ワンマンではないので 90 年代のバブル期にも生き残った。他のメディアは、ワンマン経営で、テレビなどに進出して軒並み失敗した。

Fah Diew Kan (Same Sky)

雑誌では、左翼系の雑誌。

年に 2 回（4 回→3 回→2 回と刊行頻度変更）出版している。入手先は、bookmoby（バンコクアート＆カルチャーセンター4 階）や Suksit Siam（ラーチャボピット寺院付近）などの独立系書店。Book fair でも版元がブースを出しているので入手可能。

国家による検閲・監視、フェイクニュース

・政府が監視しているのは、オンラインでの政府批判である。Facebook はよく監視されている。ただし、2018 年に入ってから、国王の指示もあり、起訴はされても不敬罪で逮捕されたケースはない。より軽い刑にしている。そうすることで、王室批判をかわそうとしている。

・プラユット首相批判はできるが、煽動罪やコンピューター犯罪法での犯罪で逮捕されるケースがかなりある。

・軍のサイバー部隊のようなものが監視している。

・フェイク・ニュースというより、政府の情報も真偽が定かではない。

・南部では、外国人はすべて監視されているという情報がメディアに流れたことがある。

・外国人による調査は、王室絡み以外は問題ない。

チモール・レステの情報

図書館

国立図書館：建設中

公文書館 (https://timorarchives.wordpress.com/2016/04/08/timors-national-archive-advancing/)

ポルトガル語の公文書がある。検索はマニュアルでカタログ未整理。インドネシア語のできるスタッフがいる。

チモール・レステ国立大学図書館

Helen Hill（元ビクトリア大学教授）がいて、外国人研究員との橋渡し役。

JICA の支援で工学部の建物が作られており、Engineering の Journal も刊行され始めた。

シャナナ・グスマン・リーディング・ルーム (Xianana Gusmao Reading Room) (http://xananagusmaoreadingroom.com/en/)

英語本もある。オンラインカタログもあるのかもしれないが、アクセス不可能。

Indonesian Cultural Center

インドネシア語の本がある図書室もある。

Resistance Museum

ポルトガル政府の支援で作られたインドネシアへの抵抗運動に関する博物館。インドネシア人にとっては受け入れがたい。

本屋

Livrose&Companhia (https://www.facebook.com/LivroseCompanhiaTimor/)

チモール・プラザにある

Cf. 出版状況はあまりよくない。 国語がポルトガル語とテトゥン語のため、法令はポルトガル語とテトゥン語。しかし、テトゥン語は語彙不足。ポルトガル語ができない若い世代もいるので、国会では同時通訳が行われている。

新聞

The Dili Weekly (http://www.thediliweekly.com/en/)

英語とテトゥン語

Tempo Timur (http://www.tempotimor.com)

英語とテトゥン語

Sapo (http://www.sapo.tl)
　ポルトガル語とテトゥン語。オンライン版

雑誌、レポート

シンクタンク・La'o Hamtuk (http://www.laohamutuk.org)や Yayasan Hak の出すレポート

出版状況、国家による監視、検閲

独立後、出版は基本的に自由。自由すぎて、オンラインでもフェイクニュースがあるがそこまで深刻な問題になっていない。また、チェックする機関が存在しない。

コミュニティラジオはたくさんある。地方語で行われている。

TVTL という国営放送があり、メインがテトゥン語で、ときにポルトガル語が使われている。8 時か 9 時には放映終了。また、内容がつまらない。そのため、圧倒的にインドネシアのドラマを見ている家庭が多い。

ベトナム情報

図書館

ハノイ

ベトナム国家図書館（http://nlv.gov.vn/ef/）

閲覧カード作成要（12 万ドン＋パスポート）、OPAC 検索可、コピー依頼可

博士論文あり（パソコンで閲覧可もあり）

ベトナム社会科学通信院・ベトナム社会科学図書館（http://issi.vass.gov.vn/Pages/Index.aspx）

ベトナム社会科学アカデミー・社会科学図書館

閲覧カード作成要（閲覧料＋パスポート＋紹介状＋写真二枚（パスポートサイズ）

OPAC 一部検索可。現地でカード検索が多い。

ベトナム随一の社会科学系図書館。

仏領期・南北統一前の雑誌・新聞・図書がある。館外持ち出し不可。

新聞・雑誌を所蔵しているが、マイクロ化はされておらず、製本状態も良くないことが多い。

コピー・写真撮影可。

ホーチミン

南部社会科学院・社会科学図書館（http://siss.vass.gov.vn/Pages/default.aspx）

仏領期以来の蔵書あり。統一前の雑誌・新聞・統計も所蔵。ただし、改修に伴う引っ越しで紛失多。館内 OPAC のみ。

ホーチミン市総合科学図書館（市立図書館）

統一前の雑誌・新聞・統計も所蔵。OPAC 検索可。一般書が多い。

デジタル化

文献や資料のデジタル化は、とくに、国立図書館を中心に漢字字喃文献や劣化資料のデジタル化が進んでいるが、デジタル化技術程度が低く、デジタル上で文献の端が切れていたり、逆にオリジナル閲覧ができなくなっていたりと研究者にとって評判が悪い。新聞もごく一部についてデジタル化が始まってウェブサイト上で閲覧可能。

本屋・古本屋

12 月 19 日通り(19 Thang 12)の（新しい）書店街

チャンティエン通り(Tran Tien)通りの国営書店

ディンレー通りの古本街→減少気味？

Bat Dan 通り 5 番の古本屋

新聞

ベトナム語紙

ハノイモイ(Ha Noi Moi)（ハノイ）(http://www.hanoimoi.com.vn)

サイゴン・ザイフォン(Sai Gon Giai Phon) (http://www.sggp.org.vn)

トイチェ(Tuoi Tre)(https://tuoitre.vn)

共産党傘下のホーチミン共産青年同盟(青年団)ホーチミン市支部の機関紙として 1975 年に設立された。紙媒体の発行部数は国内トップで、信頼性が高く政治・社会面で最も影響力のある新聞。

英語紙

Saigon Times (https://english.thesaigontimes.vn)

国家による検閲・監視、フェイクニュース

最近、ベトナムにおいて、活動家や情報発信者に対する締め付けが厳しい。

例：ベトナム女性人権活動家、突然の拘束　報道・言論の自由への道なお険しく

「社会主義共和国であるベトナムで女性や少数者の人権保護、言論の自由などの実現を目指して活動中の女性ブロガーであり、女性人権活動家でもあるフイン・トゥク・ヴィーさんが 8 月 9 日、ベトナム中部高原ダクラク州ブオンホーの自宅で地元警察によって連行、逮捕されたことが明らかになった。」

https://www.newsweekjapan.jp/amp/stories/world/2018/08/post-10769.php

ベトナムで激化する言論弾圧

ベトナムで情報発信者への締め付け、弾圧が激しくなっている。

共産党 1 党支配が続き、130 人の政治犯が拘束されている。

「ベトナム政府による民主化運動や人権問題の活動家、自由を求めるブロガーなど**情報発信者に対する締め付け、弾圧が激しく**なっている。反政府の立場を少しでも明らかにした場合は「社会の秩序を乱す恐れがある」「国家の安定を脅かす可能性がある」として**国家転覆容疑で逮捕**し、裁判の結果**長期の禁固刑**が下されるケースがこのところ相次いで起きているのだ。

こうした動きの背景にはベトナム共産党による一党支配に対する国民の不満、反政府的な主張などが**インターネットやソーシャル・ネットワーク**を通じて国内外に広く発信されている現状に政府、治安当局が危機感を募らせていることがあるのは間違いなく、ベトナムの「言論の自由」「報道の自由」は依然厳しい「冬の時代」の最中にあるといえる。」

https://japan-indepth.jp/?p=42267；https://www.hrw.org/ja/asia/vietnam

情報提供者、参考文献リスト

全般

東南アジア逐次刊行物プロジェクト編、2013、『東南アジア逐次刊行物の現在：収集・活用のためのガイドブック』東南アジア逐次刊行物プロジェクト

International Media Support and Fojo Media Institute, 2017. A Changing Asian Media: Assessing Challenges and Opportunities for Evolving Media in South and Southeast Asia.

Nikkei Asian Review. 2016.10.27. Asia's Print Media Are on the Ropes.

Nikkei Asian Review. 2018.5.22. Asia's War on 'Fake News' Raises Real Fears for Free Speech.

カンボジア

情報提供者：小林知（京都大学）

参考文献

Nikkei Asian Review. 2018.5.11. Phnom Penh Post Sale Another Nail in Coffin for Press Freedom.

インドネシア

情報提供者：吉田真（福岡女子大学）、太田敦（慶応大学）、高地薫（神田外語大学）

参考文献

小笠原綾、2012、「インドネシアの出版、書店、図書館－出張報告」、アジア情報室通報第 6 巻第 3 号

ラオス

情報提供者：瀬戸裕之（新潟国際大学）、富田晋也（名古屋大学）、大野美紀子（京都大学）、Nathan Badenoch（京都大学）

マレーシア

情報提供者：伊賀司（京都大学）、八木暢昭（京都大学大学院生）

参考文献

坪井祐司、「世界の図書館から：マレーシア国立図書館」、U-PARL ブログ（http://u-parl.lib.u-tokyo.ac.jp/archives/japanese/world-library20）

坪井祐司、鈴木絢女、篠崎香織、2005、「クアラルンプール市内およびその周辺での資料収集案内」『JAMS News』No.32

ミャンマー

情報提供者：中西嘉宏（京都大学）

参考文献

長田紀之「世界の図書館から：ミャンマー国立公文書局」、U-PARL コラム
（http://u-parl.lib.u-tokyo.ac.jp/archives/japanese/world-library18）

フィリピン

情報提供者：西尾善太（京都大学大学院生）

タイ

情報提供者：小泉順子（京都大学）、玉田芳史（京都大学）、藤田渡（大阪府立大学）、小林磨理恵（ジェトロ・アジア経済研究所）

参考文献

小林磨理恵、2017、「タイにおける学位論文の電子公開：タマサート大学の事例を中心に」、IDE-Jetro 海外研究員レポート
（http://www.ide.go.jp/Japanese/IDEsquare/Overseas/2017/ROR201701_001.html）

チモール・レステ

情報提供者：アンドレイ・ダマレド（京都大学）

ベトナム

情報提供者：大野美紀子（京都大学）、坂川直也（京都大学）

参考文献

佐藤章大「世界の図書館から：ベトナム国家図書館」、U-PARL コラム
（http://u-parl.lib.u-tokyo.ac.jp/archives/japanese/world-library33）
澁谷由紀「世界の図書館から：ベトナム国立社会科学図書館」、U-PARL コラム
（http://u-parl.lib.u-tokyo.ac.jp/archives/japanese/world-library34）
佐藤章大「世界の図書館から：ベトナム社会科学図書館（２）」、U-PARL コラム
（http://u-parl.lib.u-tokyo.ac.jp/archives/japanese/world-library35）